



縁起物などを求め長蛇の列

新春恒例の十三日市が開催される

新春恒例の初市「十三日市」は1月13日、中央通り商店街で開かれました。オープニングセレモニーでは、神事、鏡開きや猪苗代芸能保存会による太鼓演奏の後、先着150人に福袋がプレゼントされました。通りには起き上がり小法師、風車やだるまなどの縁起物や飲食物の露店が並び、多くの人でにぎわいました。小学校の児童や幼稚園児たちも先生らと一緒に訪れ、あめを買ったり、くじを引いたりして初市の雰囲気を楽しんでいました。

縁起物などを買い求める人でにぎわう商店街

佐瀬マサさんが100歳に

長寿を祝い、賀寿などを贈呈

1月7日に満100歳の誕生日を迎えた佐瀬マサさん(八千代)への賀寿贈呈式は同日、佐瀬さんの自宅で行われ、前後公町長、戸田忠義町老人クラブ連合会長らが賀寿や記念品などを贈りました。次男の真さんは「101歳、102歳とこれからも年齢を積み重ねてほしい」とあいさつ。マサさんは「こんなに多くの方にお祝いしていただき、本当にありがとうございます」と笑顔で感謝を述べました。



前後町長から賀寿を受ける佐瀬さん(右)



「鬼は外、福は内」と勢いよく豆をまく児童

「鬼は外、福は内」の声響く

野口英世記念館で翁島小児童が豆まき

翁島小学校の児童は1月29日、節分にちなみ、野口英世記念館内の博士の生家で豆まきをしました。同館では、地域の子どもたちに伝統行事を体験してもらおうと、毎年同校の児童を招待しています。当日は、同校の1年生と3年生合わせて20人が、団子挿しの飾りを片付けた後、豆まきをして一年の幸福を願いました。鬼に扮した職員らが現れると、子どもたちは「鬼は外、福は内」と元気な声を響かせながら、勢いよく豆をまきました。

貴重な文化財を火災から守ろう

天鏡閣で文化財防火デー火災防御訓練

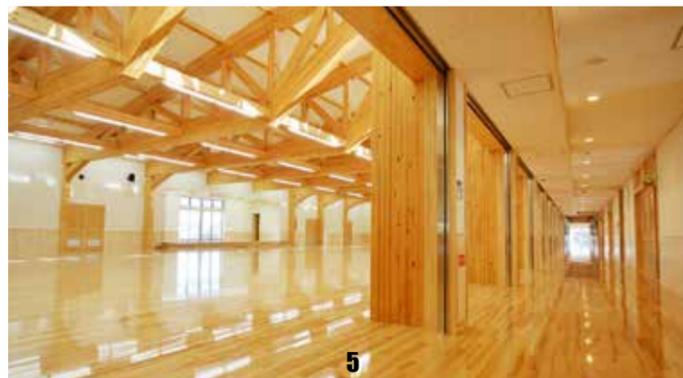
町内の貴重な文化財を守り、後世に伝えるための文化財防火デー火災防御訓練は1月24日、天鏡閣で実施されました。訓練では、文化財搬出訓練、避難誘導訓練、消防団員と消防署員による火災防御訓練などが行われました。訓練終了後、前後公町長は「日頃の訓練の成果がいかに発揮され、心強く感じた。1月と2月は最も火災が発生しやすい時期なので、予防消防に尽力してもらいたい」と講評を述べました。



消防団員による火災防御訓練の様子



- 1_落成式で、くす玉を割ってこども園の完成を祝う関係者
- 2_こども園の名称募集で最優秀賞に選ばれ、前後町長から感謝状を受ける鶴川さん(右)
- 3_内覧会には、4月入園予定の子どもたちや保護者らが来園した
- 4_こども園の顔ともいえるエントランス
- 5_広い遊戯室(左)と長い廊下(右)
- 6_明るく、木のぬくもりが感じられる保育室



ひまわりこども園が完成

落成式と内覧会が行われる

ことし4月に開園する予定のひまわりこども園が昨年12月に完成し、同園において落成式と内覧会が行われました。

落成式は昨年12月24日、同園で行われ、関係者らがくす玉を割るなどして完成を祝いました。式では前後公町長が「新たな施設で子どもたちの健やかな成長を支えたい」とあいさつ。こども園の名称募集で最優秀賞に選ばれ、同園の名付け親となった鶴川宮玲愛さん(猪苗代小1年)、同園にクライミングウォール一式を贈呈した猪苗代ライオンズクラブ、ステージ幕を贈呈した西山組合、施工業者などに町の感謝状が贈られました。

同園の内覧会は1月22日から24日まで開かれ、4月に入園する予定の子どもたちとその保護者など、3日間で延べ約900人が来園しました。

内覧会に訪れた人たちは「とても広い」「新しくきれい」と話しながら、園内を熱心に見て回りました。保護者と一緒に訪れた子どもたちは、遊戯室に設置されたクライミングウォールに夢中になって登っていました。





「いなわしろ天のつぶ」の米粉パンを頬張る千里小の児童

「天のつぶ」のパンおいしい

町内の学校給食に米粉パンが登場

町内の各小中学校では、昨年12月から町のブランド米「いなわしろ天のつぶ」の米粉で作ったパンが提供されています。千里小学校では、12月16日に初めて給食に登場し、子どもたちが地元の食材で作られたおいしいパンを味わいました。同校の児童は「もちもちしている」「何もつけなくてもおいしい」と笑顔でパンを頬張っていました。今年度は月に1、2回、町内各小中学校の給食で「天のつぶ米粉パン」が提供される予定です。

長年にわたる河川愛護活動に感謝

猪苗代湖の自然を守る会に知事感謝状

県優良河川愛護団体に選ばれた「猪苗代湖の自然を守る会」への知事感謝状贈呈式は昨年12月9日、県猪苗代土木事務所で行われました。木村勝美県喜多方建設事務所長が鬼多見賢代表に感謝状を手渡し、同会の活動をたたえました。鬼多見代表は「湖の汚染が緩和されるよう今後も努力していきたい」と謝辞を述べました。同会は平成12年に発足。猪苗代湖の水質保全のため、継続して湖岸の清掃活動やヒシの回収などに取り組んでいます。



木村所長から感謝状を受ける鬼多見代表(右)



前後町長から賀寿を受ける鮎瀬さん(左)

鮎瀬チョウさんが100歳に

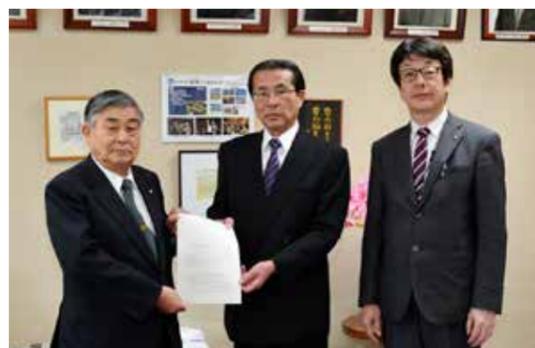
長寿を祝い、賀寿などを贈呈

1月10日に満100歳の誕生日を迎えた鮎瀬チョウさん(四ツ谷)への賀寿贈呈式は同日、鮎瀬さんの自宅で行われました。県会津保健福祉事務所の湯田邦彦副所長が、知事賀寿と会津漆器の木杯を贈呈。続いて前後公町長と戸田忠義町老人クラブ連合会長が賀寿と記念品などを手渡した後、長男の清一郎さんが花束を贈りました。鮎瀬さんの長生きの秘訣は、3食欠かさず、しっかり食べることだそうです。

補助金の適正執行のために

町補助金等適正化委員会が審議結果報告

町補助金等適正化委員会の渡部昭委員長と堀金浩蔵副委員長は昨年12月25日、前後公町長のもとを訪れ、委員会の審議結果を報告しました。審議結果には、厳しい財政状況の中、補助金が税金などの貴重な財源で賄われていることをふまえ、繰越額が多い補助事業者には補助金の交付を見合わせる、補助金の積算根拠を十分精査することや補助金等をより効率的・効果的に活用するよう補助事業者に指導することなどが盛り込まれました。



審議結果を報告する渡部委員長(中央)と堀金副委員長(右)



3部門で金賞に輝いた杉田さん(左)



受賞者の皆さん

みんなでおいしい米を作ろう

第1回いなわしろ美味しい米コンテスト

第1回いなわしろ美味しい米コンテスト2015の最終審査会と表彰式は昨年12月22日、町農村環境改善センターで行われました。

このコンテストは、町内でおいしい米づくりに取り組む農業者などを支援するとともに、良食味米・ブランド米産地としての「猪苗代」の確立などを目的に初めて開催されたもので、「いなわしろ天のつぶ」、「いなわしろひとめぼれ」、「その他のうるち米」の3部門に出品された米のおいしさを競いました。今回は3部門に延べ38の農業者から応募がありました。受賞者は下記のとおりです(敬称略)。

【金賞】

▶天のつぶ 杉田透(白木城)、土屋勇雄(壺下) ▶ひとめぼれ 神田忍(名古屋町)、杉田透、高橋良次(内野) ▶その他うるち米 土屋孝彦(百目貫)、杉田透

【優秀賞】

▶天のつぶ 高橋良次、鈴木英次(戸ノ口)、神田忍 ▶ひとめぼれ 小松山栄喜(祢次)、桑原富男(新屋敷)、佐藤一則(百目貫)、長谷川富夫(祢次) ▶その他うるち米 土屋勇雄、佐藤正一郎(壺下)、長谷川富夫

年頭に無火災・無災害願う

町消防団幹部らが出初式を挙行

町消防出初式は1月6日、町内の諏訪神社で行われ、町や町消防団幹部など約50人が出席し、今年1年の無火災、無災害などを祈願しました。神事後、前後公町長が「町民の生命財産を守るという崇高な使命の下、消防団の一層の尽力を期待する」とあいさつ。五十嵐正義団長が「団員各位が職務を全うする自覚を新たに、住民の安全を守るとともに、防災意識の高揚に努めてもらいたい」と団幹部らを鼓舞しました。

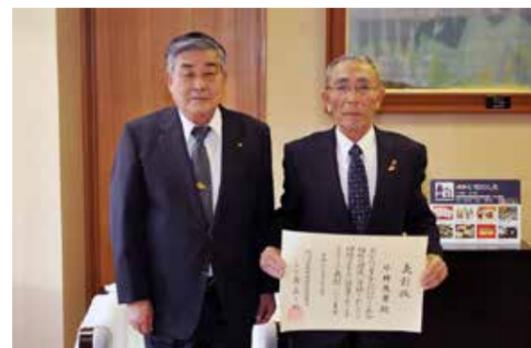


無火災を祈り万歳三唱する出席者

地域福祉への貢献たたえる

小林英男さんに全国社協会長表彰伝達

全国社会福祉協議会長表彰を受けた町民生児童委員の小林英男さん(北高野)への表彰状伝達式は昨年12月24日、町役場で行われ、小林さんの長年の功績をたたえました。伝達式では、前後公町長が「今後も地域福祉のため尽力をお願いします」と述べ、小林さんに表彰状を手渡しました。小林さんは現在まで約20年間民生児童委員を務め、平成25年12月からは町民生児童委員協議会長を務めています。



前後町長から表彰状の伝達を受けた小林さん(右)